

# 第4回スタートアップ創出調整連絡会議 説明資料

令和5年8月

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局



# グローバル・スタートアップ・キャンパス構想

令和4年度補正予算額 75億円

## 施策の目的

- 研究シーズからスタートアップを起こしていくエコシステムの形成が必要不可欠。
- ディープテック分野に特化した研究機能と国際標準のインキュベーション機能を兼ね備え、スタートアップ創出などの手法を通じて様々な社会的インパクトをグローバルに生み続けることを使命とする研究イノベーション拠点「グローバル・スタートアップ・キャンパス」を東京都心(目黒・渋谷)に創設。
- 当該拠点では、すべての活動が英語で行われる完全なグローバルな場、世界中の優秀な頭脳、特に若者がここに飛び込んで切磋琢磨したいと強く思う場、多くの外国人や女性研究者・起業家なども参加する多様性とエネルギーにあふれる場となることを目指す。

## 施策の概要

- 【フィージビリティスタディ等(9億円)】
  - グローバル・スタートアップ・キャンパス構想での連携に向け、マサチューセッツ工科大学(MIT)など海外トップ大学とのフィージビリティスタディの実施、必要となる建物の検討を推進。
- 【先行研究の実施(66億円/基金)】
  - 海外大学等とのネットワーク構築、スタートアップ創出に向けた取組を加速するため、協力が想定される海外トップ大学等から研究者等の招へい、国際共同研究等を推進。

ディープテックに特化した世界トップレベルの研究成果  
(バイオ、AI/ロボティクス、環境など)

- ✓ 海外トップ大学・研究機関・VCなどとの連携
- ✓ 先行する海外のアセットを積極的に活用

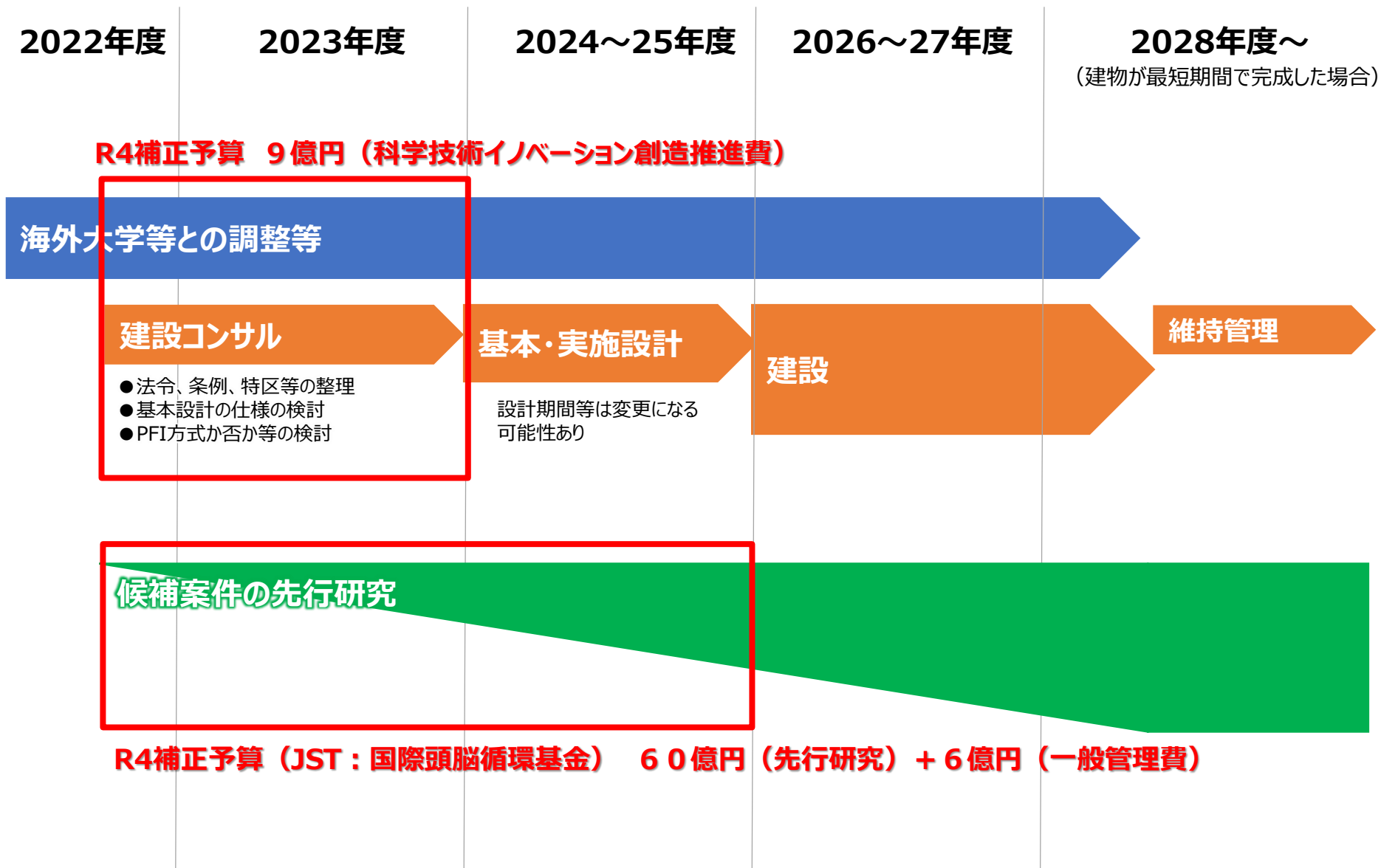
世界に挑戦する  
スタートアップ創出

- ✓ 産官学のすべてから、研究者、資金等を受け入れ
- ✓ 寄付等を原資とする独自のエンダウメントの構築

国際標準のインキュベーション機能  
(アクセラレーション、VC、  
コワーキングラボ、アントレ教育)

民間資金を基盤とした柔軟な運営の実現

# グローバル・スタートアップ・キャンパス構想 今後の想定されるスケジュール（イメージ）



●日米首脳会談概要(抜粋)(令和5年5月18日)

2. 岸田総理大臣から、ディープテック分野のイノベーション及びスタートアップのエコシステムを構築するため、「グローバル・スタートアップ・キャンパス」を東京都心（目黒・渋谷）に創設すべく、米国のリーディング大学の一つであるマサチューセッツ工科大学（MIT）と連携し、フィージビリティ・スタディを実施し、米国の協力も得つつ構想の具体化を強力に進める旨述べ、両首脳はスタートアップ、イノベーションの分野で両国が緊密に連携することの重要性で一致しました。また、両首脳は、教育・科学技術分野における日米間の協力に関する覚書が作成されることを歓迎しました。

2. Prime Minister Kishida stated that Japan is working closely with the Massachusetts Institute of Technology (MIT), one of the leading universities in the U.S., to conduct a feasibility study to establish a “Global Startup Campus” in central Tokyo (Meguro / Shibuya) in order to create an ecosystem of innovation and startup in the field of deep tech. The two leaders concurred that it is important for Japan and the U.S. to coordinate closely in the field of startup and innovation. The two leaders also welcomed the finalization of a Memorandum of Cooperation on education and technology.

## ●新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2023(令和5年6月16日 閣議決定)

### V.2.スタートアップ育成5か年計画の推進

#### （4）スタートアップ創出に向けた人材・ネットワークの構築 ④グローバルスタートアップキャンパス構想

日本の大学・研究機関の人材・研究シーズのグローバル展開にも資するよう、海外トップ大学の誘致、優秀な研究者の招聘等により、ディープテック分野の国際共同研究とインキュベーション機能を兼ね備えた、官民の資金導入によるグローバルスタートアップキャンパスを、東京都心に創設する。そのため、マサチューセッツ工科大学（MIT）などの米国トップ大学と連携しつつ、下記の取組を推進する。

- ・海外トップ大学等と長期・安定的な協力関係の構築を進めるとともに、キャンパスの運営に当たっては、キャンパス自身のエンダウメント（大学基金）を構築し、戦略的な運営の実現を目指す。
- ・国内大学の研究開発を活性化し、変革を促す。キャンパスの施設・設備の完成を必ずしも待つことなく、海外大学等との共同研究や研究者交流等を先行的に実施し、迅速にスタートアップ創出に取り組む。また、これらの取組を通じて、アカデミックな分野にとどまらず、スタートアップやベンチャーキャピタルでの活躍も含め、グローバルに活躍する博士課程学生や若手研究者の育成を図る。
- ・海外大学が有する起業家育成・インキュベーションプログラムの活用や、海外トップベンチャーキャピタルとのネットワーク形成を通じて、海外エコシステムやグローバルなインナーサークルへのアクセスも可能とする。
- ・国内外企業とも連携することで、同キャンパスでの共同研究や起業家育成プログラム等を通じて、国内企業のイノベーション創出力を向上させる。
- ・関係自治体とも連携し、都市計画としてエコシステム強化を図る観点から、外国人材の生活基盤整備等の施策とも一体的に進めることで、真にグローバルなキャンパスを形成する。
- ・この構想は、既存の組織のルールにとらわれない、自由な「実践の場」とし、その観点から司令塔機能としてのスタートアップ担当大臣のもとで、各種施策との連携を図り、一元的・効率的にキャンパス創設を図る。
- ・全国の大学・研究機関との有機的な連携を図るとともに、特に既にグローバルマインドを備えている沖縄科学技術大学院大学（OIST）についてはスタートアップ創出・育成に向けて共同研究や人材交流等を推進する。

● **経済財政運営と改革の基本方針2023(骨太の方針)(令和5年6月16日閣議決定)**

第2章 2. (3) スタートアップの推進と新たな産業構造への転換、インパクト投資の促進

(スタートアップの推進と新たな産業構造への転換)

…あわせて、連携に向けたマサチューセッツ工科大学（MIT）など海外トップ大学との調整や施設の検討など構想の具体化を進めつつ、優秀な研究者の招へい等により、ディープテック分野の国際共同研究とインキュベーション機能を兼ね備えた「グローバル・スタートアップ・キャンパス」を東京都心に創設するなどの取組を推進する。

また、スタートアップの資金供給の強化と出口戦略の多様化を図るため、ベンチャーキャピタルへの公的資本の有限責任投資、ベンチャーキャピタルとも連携した事業開発等の支援、S B I R制度による支援の推進とスタートアップの実態を踏まえた運用改善、エンジェル税制の活用促進等に取り組む。

## ●統合イノベーション戦略2023（令和5年6月9日 閣議決定）

### 第1章 2.（3）イノベーション・エコシステムの形成

①スタートアップ徹底支援（スタートアップ育成5か年計画の推進）（世界に伍するスタートアップ・エコシステムの形成）

イノベーションの源泉となる大学等を中核とするイノベーション・エコシステムを形成し、ディープテック分野を中心とする大規模なスタートアップを創出するため、強化されたS B I R制度の活用やグローバル・スタートアップ・キャンパス構想の具体化、ディープテック・スタートアップ支援事業を通じたディープテック分野のスタートアップの事業化・社会実装への支援強化や公共調達拡大、起業家層の拡大、成長志向の資金循環形成、さらには大学の知財ガバナンスの向上を進める。

② グローバル・スタートアップ・キャンパス構想をはじめとする都市や地方、大学、スタートアップの連携強化（グローバル・スタートアップ・キャンパス構想の推進） 質の高い基礎研究から生まれた新しい技術（ディープテック）の潜在力を、世界を席卷し得るビジネスにシームレスにつなげていくため、政府として、ディープテック分野の研究機能とインキュベーション機能を兼ね備えたグローバル・スタートアップ・キャンパス（G S U C）を整備する構想が、その実現に向け本格的に始動した。 本構想のフラッグシップとなる拠点を東京<sup>17</sup>に創設することを目指し、有識者の意見等も踏まえつつ、連携に向けたマサチューセッツ工科大学（M I T）など海外のトップ大学との調整や施設の検討など構想の具体化を進める。 また、G S U Cの創設に先立って関連する国際共同研究を実施するなど、G S U C構想の効果の最大化に向けた取組を一体的に進めるとともに、G S U C構想の実現により国内大学の研究開発を活性化し変革を促す。フラッグシップ拠点の創設に当たっては、関係自治体におけるスタートアップ施策と連携して相乗効果を生み出すとともに、外国人材にとって魅力あるものとなるよう、生活環境を含め一体的な街づくりを目指す。また、本フラッグシップ拠点を中核として、各地方のエコシステムとも連携することで、世界標準のビジネスを日本全体で生み出していくエコシステムの形成を促進する。

脚注17 渋谷区と目黒区に所在する国有地（防衛装備庁艦艇装備研究所に隣接する防衛研究所等跡地及び公安調査庁研修所跡地）を想定。

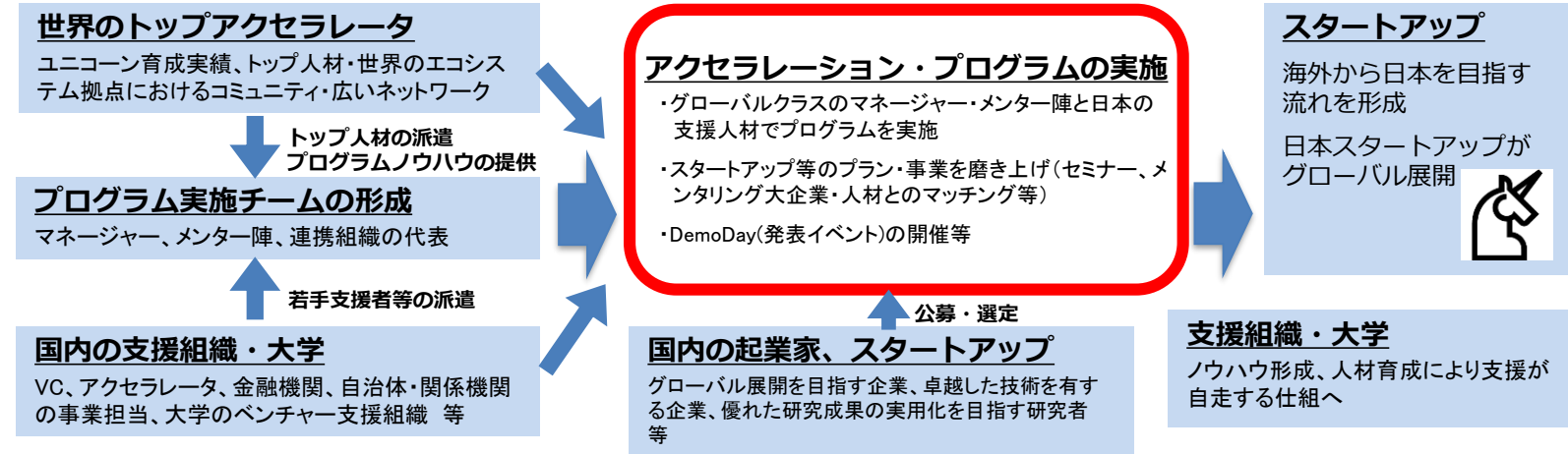
# スタートアップ・エコシステム形成推進事業（アクセラレーション・プログラム）概要

## 背景・目的

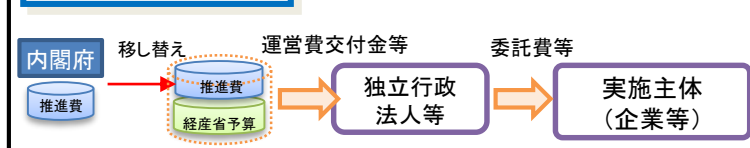
- スタートアップ・エコシステム拠点形成戦略（2019年6月）に基づき、エコシステムの中核となる拠点都市を選定（2020年7月）。
- エコシステム形成と成長促進、官民の投資を誘発するため、拠点都市支援のランドマーク・プログラムとして、2020年度当初予算で1.5億円、2020年度補正予算で10億円、2021年度・2022年度補正予算で15億円の予算を確保し、アクセラレーション事業を実施。
- これまで（2020年度～2022年度）の累計で約280社のスタートアップに対し、支援を実施。

## 事業概要

- 海外トップアクセラレータによるプログラムを実施し、世界に羽ばたくスタートアップの育成、世界のトッププレーヤーと各拠点の支援組織（自治体、ベンチャーキャピタル等）の繋ぎやノウハウの移転を実施する。



## 資金の流れ



## 期待される効果

選定された拠点都市でグローバル視点のスタートアップ育成、支援人材の交流による支援ノウハウの伝達を促進。あわせて投資の実務・契約の基本・事業展開のスピード感などエコシステムの基盤となる知見や行動様式等もグローバル水準に合わせることに貢献。



# SBIR制度の抜本拡充

令和4年度補正予算額 2,060億円(基金)

## 施策の目的

かつては、公共調達を見据えた中小企業の技術開発支援であったが、今やSBIR制度(Small/Startup Business Innovation Research)はスタートアップに対する研究開発支援に移行。同制度に基づく「指定補助金等」の対象・規模を抜本的に拡充。

## 施策の概要

ビジネスアイディアのFS調査段階(「フェーズ1」)、実用化に向けた研究開発段階(「フェーズ2」)の支援の拡充に加え、新たに先端技術分野における大規模技術開発・実証段階(「フェーズ3」)も支援対象に追加する。

## 施策の具体的内容

